

# 「古川民主病院・中新田民主医院・友の会創立40周年記念レセプション」開催

## 自らの力で新しい歴史を作っていこうと誓い合う

古川民主病院組織課 只 埜 齊



レセプションの様子

7月15日大崎市グランド平成にて、古川民主病院・中新田民主医院・友の会創立40周年記念レセプションを86名の参加で開催しました。

# 厚生協会だより

2017年9月21日  
第 345 号

発行  
公益財団法人  
宮城厚生協会

〒985-0835  
宮城県多賀城市下馬  
二丁目13番7号  
TEL 022-361-1113  
FAX 022-361-1124  
発行人：平賀秀夫

今回のレセプションは一年来より40周年記念事業として計画してきたものです。2016年は友の会ができてから40年、大崎の地・中新田に民医連の火が灯ってから46年。これまでを振り返り、先人の方から引き継がれてきた民医連の火を未来に受け渡していくのかを具体化する内容として①記念碑まつり(昨年8月6日に開催)②40年史誌の発行③記念レセプションの三つの事業を計画しました。また、健康まつりではそれぞれの支部が昨年「友の会創立40周年記念」の冠をつけて開催しました。

### 「何時でも誰でも」のスローガンからスタート

当日は厚生協会平賀秀夫事務から祝辞があり、「民医連は、歴史をたどれば、医療を通じ、みんなが医療を受けら

れる世の中に力を合わせて変革していくところです。」と述べられました。日本共産党の小沢和悦市議会議員からは『設立当時、いつでも、だれでもが医療を受けられるようにと民主商工会や農民組合など地域の様々な政治や社会の活動に関わった方々が並々ならない苦労と情熱でその土台を作ってくれた。その想いを忘れずに大崎地方の民医勢力の拠点としてあり続けて欲しい。』と述べられました。元鹿島台町長の鹿野文永さんからは『民主病院と友の会は、時代を切り開く地域の宝です。おめでとございます。』とのお祝いの言葉をいただきました。

そして40年間を振り返るスライドが上映され、当時は具合悪くなって夕方から次の日



開院当時の横山医院

### 40周年記念誌

「大崎健康福祉友の会」  
なつて十年



前回「30年の歩み」は大崎健康福祉友の会結成までを記されており、今回の構成は大崎健康福祉友の会になってからの10年間をまとめました。ご寄稿いただいたみなさまに感謝申し上げます。

の朝まで具合悪くてもなかなかお医者さんに診てもらえない。これを「何とかして診てもらえるようにしてもらいたい」「何時でも誰でも」というスローガンからスタートした模様が横山医院設立の頃、古川民主診療所設立の頃、友の会の誕生、現在の活動内容として紹介されました。

乾杯の後、参加された方々から民主診療所や友の会の歴史についての思い出が語られ、今度は私たちが自らの力で新しい歴史を築いていこうと誓い合いながら散会しました。

## 南光台地域包括支援センター活動状況紹介

「地域包括ケア」実現を目標に  
様々な活動に取り組む

南光台地域包括支援センター 鈴木 弘人

## センターの目的

地域包括支援センターは、高齢者の尊厳が保たれ、様々な社会資源を活用しながら、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、住まい、生活支援、

医療、介護、介護予防と様々な面から包括的に継続的な支援を行う「地域包括ケアを実現すること」を目的に活動しています。

## センターの活動紹介

・要支援1・2の認定を受け



ケアマネ交流会での学習風景

地域ケア会議  
地域の代表が集まり前に出ている人も地域住民です

- ・地域住民が主催する『介護予防運動自主グループ』を6団体立ち上げ、毎月定例会に参加しています。また、センター主催の『介護予防教室』を開催し、地域の介護予防の普及に努めています。
- ・障害者施設の一部をお借りしてカフェを毎月開催し、地域交流の場としています。6月は11名の方が参加し、運営ボランティアとして手伝いたいというありがたい言葉も頂きました。
- ・医療と介護の顔の見える関係作りのための『南光台地



介護予防運動自主グループの風景



地域課題について検討

- 域つむぐの会』の設立から関わり、交流しています。
- ・南光台地域は消費者被害が多いと交番所長からの話を聞き、年金支給日に金融機関前で消費者被害防止の『ティッシュ配り』をしています。
- ・ケアマネジャー支援の一環として、『ケアマネ交流会』を行っています。学習会や民生委員との交流など定期的に開催しています。
- ・年4回『包括だより』を地域へ発行しています。最近では地域で活動している団体を地域の方に伝えることを目的に、各団体取材しながら発行しています。
- ・認知症への対応も近年急務

となっています。『認知症介護家族の会（ひまわりのつどい）』を立ち上げ、地域の薬剤師さんにも参加してもらい、薬の助言などを頂きながら、毎月家族交流会を実施しています。交番と協力しながら、徘徊高齢者早期発見の仕組み『SO Sネットワーク南光台』を立ち上げ、地域に広報も行っています。地域の情報をまとめた『地域版認知症ケアパス』を作成しています。

他にも多様な活動を行いながら、「地域包括ケアを実現すること」を目標に様々な活動に取り組んでいます。

ひまわりカフェ  
サックスを聞きながらコーヒータイム♪



## オストメイト(ストーマ保有者)の

## 「日本オストミー協会

## 社会適応訓練・相談会」開催

7月はじめの午後、坂病院教育ステーションにおいて、オストメイト(ストーマ保有者)の「日本オストミー協会社会適応訓練・相談会」が開催されました。

本会は宮城県より委託されているオストメイトの社会適応訓練事業であり当院で開催するのは初です。参加者は29名でした。(スタッフは、宮城県障害福祉課1名・医師1名・看護師3名・メーカー販売店4名)

## 講義

はじめに「いきいきとした生活をおくるためのストーマケア」オストメイトの悩みは様々 気軽に相談してみよう」のテーマで、当院の中川明子皮膚・排泄ケア認定看護師より講義がありました。



講義する中川さん

ストーマケアの基本からトラブル時対応の方法、臭いの対策、入浴の方法、オストメイトのトイレ実態調査結果、外出時の身近なオストメイトトイレを確認しておくこと、災害対策など、多岐にわたる内容にベテランオストメイトも聞き入っていました。休憩を挟みながらメーカーの入浴グッズや消臭力パーなどのサンプルを見学。

## 座談会形式で相談会

後半の相談会は医師・看護師を含め輪になり座談会形式で行われました。

佐澤由郎医師(外科系診療部長)からは「ストーマを作る側の立場として、生活に不便のないよう管理しやすいストーマを作るよう努力している。体型変化などでやむを得ず、ストーマトラブルがおきる場合もあるが遠慮せずかかりつけの外来で相談ください。」などの話がありました。オストメイトからは「装具を強く剥がしてしまい皮膚が赤くなった。まさに今日の講義の通り、皆さん優しく剥がしましょう」「皆さんは温泉、



お話しする佐澤先生

入浴をどうしていますか」「ズボンのベルトの位置にストーマがあるが特殊なサスペンダーを使い、トラブルなくあちこち出かけている」など多くの活発な質問・意見が出されました。

最後に、オストミー協会支部長の岡崎さんより、「ストーマになっても閉じこもらず、ちよつとしたコツを学び教えあいながら、生活を楽しましましょう。役員に気軽に相談ください。」と励ましの言葉をいただき、皆さん明るい表情で会を終えることができました。

本年、障害福祉課の方が初めて参加され、ストーマ保有者は外見からは障害が解りにくい内部障害であること、それでも他の障害者と同じで生活上不便なこと、困っていることが多々あることを理解した、今後の対策の参考にしていきたい、と述べられました。

## ■若手看護師の感想

「今回、参加させていただいたおかげで生活を送る上で注意していること、疑問に思っていることなどをオスト

メイト同士が話し合い、交流を深めていることを知りました。また、業者の方々や医療従事者が参加することにより情報の共有ができ、情報交換の場にもなっていることを知りました。今回、皆様から聞くことができた貴重なお話を参考に、ストーマケア指導に活かしていきたいと思えます。」



座談会形式の相談会



ヒロシマ・ナガサキ「原爆と人間展」inしおがま「開催

## 被爆から72年、ついに『核兵器禁止条約』誕生！ 核のない世界にむけて新たな一歩！



坂総合病院むつみ会担当 保健師 鈴木 悦代

### 4日間で約500名の方が来場

今年の原爆展開催直前の7月7日、『核兵器禁止条約』が国連で採択されました。長年の被爆者はじめ市民の運動が結実したニュースも冷めやらぬ7月29日(土)～8月2日(水)(月曜日休館)の4日間、イオンタウン塩釜1F塩釜行政サービス・マリンプラザで開催されました。

主催は塩釜地区被爆者の会(むつみ会)で、会を支援する原爆展準備会(坂総合病院、みやぎ東部健康福祉友の会平和活動専門部、つばさ薬局、事業協、新婦人、原水禁塩釜協議会、あゆみ保育園で構成)が共同で、2004年から毎年取り組んでいます。

店内で偶然知って来場する人も多く、約500名の方が来場し、これから核兵器廃

絶にむけた新たな一歩である  
と、原爆展の意義を再確認しました。

### 多彩な内容



原爆紙芝居

展示内容は、新「原爆と人間」(日本原水爆被害者団体協議会作成・むつみ会所蔵)の他、広島平和記念資料館貸出しの「サタコと折鶴ボスタ」(子供たちの平和ボスタ)「展示の他、アニメや紙芝居、DVD原爆の記録映像を活用。

被爆者の平塚矩正さん(むつみ会会長)とDVD映像で



被爆体験を語る平塚さん(奥)

宮城県原爆被害者の会の木村緋紗子さんが、「原爆は、人として死ぬことができなかった。夢も希望も失われた人々の無念を忘れることはできない。命ある限り核兵器廃絶を訴えていく」と被爆体験を語りました。

被爆者の平均年齢は81歳を超え、直接語り伝えることが年々難しくなる中、長年むつみ会を担当された神久和先生が今回も「伝承者」として話されました。被爆者の人生や



お話しする神先生

原爆症認定基準改定後も続く認定行政の問題について聞いた参加者は、「もっともっと署名揚げなければ」と力づけられました。

### 【来場者の感想を 一部紹介します】

・もつと今の人たちは目をそらさないで、また同じ事がないように勉強しなきゃなと思いました。若い方々にもぜひ見てもらいたい感じてもらいたい。(10代女性)

・心が痛く切なくなる想いです。遠い過去とは思いません。今の時代の人は当時のことをあまり理解できていないので、原爆の恐怖を知るためにこう言う展示会などを見る事が出来てよかったと思いました。(10代女性)

・少しずつ原爆から時間が経つごとに忘れられていくのを感じる。福島原発の事故すら忘れられつつあるのかと思う。自分の身に起きなければ他人様の様に感じる人々が多いのか。平和でいる為に私達がしっかりと声

をあげ目を見開いていかなければと思う。(40代女性)

・原発再稼働をすすめたいと思う人たちにぜひ見て欲しい。これでも原発は必要だと言っのか?と聞きたい。(50代女性)



真剣に展示物をみる

### ここから新たな一歩

122か国の賛成で『核兵器禁止条約』が採択されましたが、『核の傘』の中にある我が国政府は条約交渉会議に参加せず、採択された条約にも署名しないと表明しました。唯一の被爆国でありながら被爆者の願いに背をむける政府を変えていくため、今後粘り強く運動を継続していくことが大切と考えますので、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

# 仙台錦町診療所と 健診センターの統合を行なって



仙台錦町診療所・産業医学健診センター

事務長 日比野 恵子

今年5月に仙台錦町診療所と健診センターが統合しました。経営改善5ヶ年計画の中ですめられた事業で、目的は以下の通りです。

- ①労働衛生・産業医学・健診事業を統合させ、健診・保健予防活動の方針立案及び推進機関とする。
- ②2事業所の共通する事業を総合的及び効率的に行う。
- ③今後保健予防活動を担うスタッフ育成の拠点として位置づける。

④人件費等の費用の見直しを行い、経営の改善を図る。錦町診療所と健診センターは、1984年に仙台錦町診療所・産業医学健診センターとして開設、1997年健診センターが分離し長町病院へ移転という経過がありま

す。今回、開設時のかたちに戻ったことになり、外來診療・産業医学・健診事業の3つの分野を一体的に行うことができる事業所として統合による利点を活かすことができるよう進めよう。行く予定で

核戦争を防止する宮城医師・歯科医師の会 公開講演会

## 米国トランプ政権と日本外交

—非核平和、原発、北朝鮮等をめぐって—

米国トランプ政権発足後の世界は大きく流動化を始めています。一方、国内では安倍政権による憲法改悪の動きが強まっています。非核、平和、原発、北朝鮮のミサイル、核開発などをめぐって外交の現場でどのようなことが起こっているのか。そして日本の果たすべき役割とは。日米外交に詳しい猿田佐世氏のお話を聞き、共に考えたいと思います。ぜひご参加ください。

講師 猿田佐世 氏 (新外交イニシアティブ事務局長、弁護士)

弁護士 (日本・ニューヨーク州)・立教大学講師 沖縄国際大学特別研究員  
主な著書『虚像の抑止力』(共著、新外交イニシアティブ編・旬報社)  
・『沖縄基地問題は日米関係の縮図 —「ワシントン拡声器」を可視化する報道を』(雑誌「Journalism」2015年9月号) 他



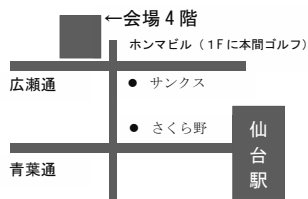
《日 時》2017年 10 月 14 日 (土)

14 時 00 分～16 時 00 分

《会 場》宮城県保険医協会研修ルーム

仙台市青葉区本町 2-1-29 ホンマビル 4 階

《参加費》 無料 どなたでも参加可



ことからは職員全員が顔を合わせることで困難な状況があります。今後業務の改善をさらに進め、今回の目的に近づけることができるよう取り組んでいきたいと思っています。



さわやか **エッセイ**

## スポーツはやっても 観ても楽しい

坂総合病院理学療法士 **佐藤 勇輔**

坂総合病院で訪問リハビリを担当している佐藤です。

私は、スポーツはやっても観ても楽しいです。やるほうでは、自分は長年サッカーやフットサルをやってきました。ボールを追いかけていると、頭がスッキリします。サッカー日本代表は、ロシアワールドカップ予選を闘っています。この原稿が掲載される頃には、出場が決まっているといいですね。

観るほうでは、野球・サッカー・バスケットボール・フットサルと、多くのプロスポーツチームが宮城にはありますが、最近では、自分はテレビでの観戦が主です(笑)。スポーツニュースを欠かさずチェックしています。

また、東京オリンピックが3年後にあります。宮城もサッカー会場になっているみたいです。せっかくの機会なので、チケットがとれたなら行ってみたいと思います。

一方、今年の夏も様々な勝負の世界が展開されました。世界水泳、世界陸上、ゴルフ、高校野球などなど。楽しませていただきました。



共済会フットサル大会

### 最近面白いのはゴルフ

最近、年のせいか面白いなと思えてきているのは、ゴルフです。宮里藍選手や石川遼選手の活躍で、注目を浴びるようになりました。現在は、多くの若い選手が台頭してきています。

ゴルフは、1ホールごとに規定の打数が設定されています。それに対して、実際はどのくらいでボールをカップに入れられるかを競い、プラスやマイナスで表すスポーツです。0ならパー、-1ならバーディ、-2ならイーグル、反対に+1ならボギー、+2ならダブルボギーといった風になります。-3はアルバトロスと言うそうなのですが、TVを観ていて聞いたことはほとんどありません。これらからマイナスが多ければ多いほど好成績ということになります。

先日、松山英樹選手が出場した全米プロゴルフ選手権は、非常に惜しかったですね。特に、規定打数を越えてしまった後にどのように気持ちを落ち着かせ、次の一打につなげるかがゴルフの肝だと思います。ルールが分かれば、スポーツの観方も変わってくるのかなと思います。

宮城でも、来月ダンロップ女子オープンがあります。ゴルフは、一見分かりづらいスポーツの印象もありますが、皆さんも一度見られてみてはいかがでしょうか(笑) ?

